

こと呼んで徳土の言葉と聞て明日死まての後学ふせよと云り
 一吉白いふ紀州大河内なるる小住せきなる一人の高名然と云
 云清心事長むと極りたる三村子と突て相討の將に付て大
 河内は太方影の高名と某一人小住せきなる事争き中の際と
 出衆と立立押付も和くしててさうり城内の上下をまきて
 又類もあき剛きまを例の来の涼しよと感せぬ者もあり清心
 大河内を逃げては道若事あつとまどもは教ふき一言お付百倍
 まはりありと感せぬ者もあり大河内を座を立てて後所りけと三
 將と初ては智の面々にて大河内三村を淨論の涙も権も事共あり
 正なる晋の六卿と目も小見と有難きよと重感あつとや角て三

村大河内と待居て云々心成もて某九首小極も交備
 以蔭と存一代の西日後世の聴けり兵も小善ん小徳の者も小
 い今朝討殘され味方僅小五千小は小割兵糧入も水も
 角大敵の攻と防と事争ひ妙目小端擲が斧もて龍車と止む
 と小此堀裏ハ小難一あは貴田と小小田と双ふ小の山路の山供
 申及合頼さうと感せやや大河内國を宣くや小尋常の敵も
 を謀もるる小は殊小飛驒守と後所第一小敵討く改め思ひか
 是も某ども死出の先陣あつて今生の西行を今以限りと云捨て
 互の小ま小涙をせし西水の役もどり別をば系今日の敗軍小味方
 討死の者も討死に二万八千三百六十餘人あり討死するの軍兵も矢

五本十本十本射多し其の無りけり其の餘は各は其の塙裏に
鎧の首を握りて敵の責を待たりける

去程小十二月廿三日卯の刻けりあるに大明の爲王の本陣小息の貝
と立し早鐘突鳴り音は度て我千番共限りるに石火矢大筒

蔚山の城小差向て打くる其響城中大地震の如く八十萬騎の勢
軍一及小固と上りけり龍兵耳もはくも身骨も忽ち碎る

心北へ天地も崩れ大山も金輪際沈汁を穿り熱極の西北
東三方に雲大敵一軍武者づり備の色をうえ先陣後陣の間

を隔し二十ふと云限もく立候ける一軍の大將をけりけり
早雲虎の如く群を率て楯と雌羽小突進攻る城内より

透回あく打立射多し敵楯を二及小抛捨各鐵太刀を以て
まりの三軍の柵を切破り忽ち塙を付りけり城内の軍士矢を

撃て爰と申途と防色とも大明勢形係る命を構は攻る
ハ討共突も物の敷ともせば棄却別進は塙をばると切破

一塙裏の軍兵もまると二三本丸を破る商人雜兵も亦
我先かと逃入る向大の門を七十五人馬三疋二死門を二十人馬

三疋三の丸の門を三十四人馬一疋破る上小踏敷にて城を又々
と率治敵を公掛諸人の急をたへて父を為射討は使と物

搦破も早く門入りて我ハ亦小京大長章長の持
と乗りて長長と先をさへける事長の如く打無類も兵小

て只一人引けりて入るる敵合近きニバ討つと馳來るる平治
 その馬駿輪と掛く終り討せむあり少き殿一ニ九搦手の門
 入るる爰小大河内なる門射る昨日の敗軍小馬野所まで討れ
 けし馬と楯内置系故歩立少引ける間忽然と諸將の聲
 ふさがりて近寄敵と切拂て本九大手の門を突入り三大將
 さどり堀裏の役所を定む本九東側太方の門左右の矢矢云飛
 弾も一吉南側矢矢三つ太方太方幸長西側矢矢一ツ二十五圓の
 長屋二の丸下りの門までハ加藤清兵衛尉二九主計政清完
 戸内も二の丸加藤とぬ馬尉同与平治近藤四郎と馬尉と極めて
 各堀裏と堅めける敵の大軍夥まてひて入引退き一と改て

ハ引入荒手を入るる辰の刻計より夕日及びまで六夜中にて
 攻めりたる籠兵代味方家一息もはたは火烟を出して防る
 堀城内の通を切て陸子の押として十萬騎舟子の押
 十萬騎を運んまて誠小島あてハ城中ハ火を燃ゆけり
 小籠兵寄集り評定し多ハ抑今日の大攻ハ敵少ハ草臥
 南大敵ハ五十重百重の限も多ク圍を居て命を惜む事
 トいざや今夕夜討し出んと云令世田中小左衛尉二の丸ハ行清
 正に向て唯今夜打し出出若中丸ハ又難き時多ハ依ハ二の丸
 三の丸成共取入る令言葉ハ多クハ法門の南ハ仰付ら
 さいと云渡一僅五十騎計密に城を思出て取付き討

其の敵陣行儀正しく其討もめつらぬ我とてども脇の陣より加勢せば鎗先を夜討の方へ差向て一足も去らば備を乱さば
 不きりよ空居る間敵兵望のまに打ちまよし首討を鎗先
 刀の柄を高くと味方一人も討せざり引寄せ敵夜討の手
 立首一とて城内の軍兵衆の目を合はせ堀裏をぞ守りける
 廿四日寅の二天より大軍は陣中催ひ渡り候と立寄る敵方
 より日本人と見しる十二橋城山の麓小き大音上てまゝ
 城内鳴を静て進みきり小地少勢の蔚山時刻を移しは只今
 眼も乗破り大将を先とて籠兵悉く生捕大明國の禁中
 を見物せんと呼りり城中小是を聞答て曰夫軍の勝負と

云らま少ふより八十万騎の數るるに五百万騎が敵より共山
 を裁せむ討に西國王を生捕て我朝帰國の土産と日本
 大君實拾不備奉らんゝ忽りりと返答を角く大軍一多備を
 三方を巻巻持楯とて狭槍を打矢を射込大晴雨の塊を
 破不異るる大河内茂在馬尉堀の上小登て引寄せり討に敵
 城下より射る矢を大河内が頭を射さるり忍の緒を射切て
 曹平下海けるを折弁幸長通り見てまを負はへりやと問をる左
 徑の事ふらばと云月小又美東て右の腰を射る大内内三所
 矢を蒙り早矢種もあけき堀の上より下りたり我は夫軍の均
 を掘管はみて備の勢と立合もと等く大廿二尺餘りの大竹と十

文字小打遠二麻繩の太きとて家根裏の如くつき付るゝと敵を
 きて持束照して門の白屋小大勢足をかきはきは石垣小只一
 度打行我者しと攻まる魔王修羅の我も夜叉羅刹の念も是小
 急下と覚る城内の軍士も付の系一重を隔て突落し刻序
 胸の板曹のはち着る所を幸小火水小成て突崩を辰の刻の初より
 申の刻の終まで七備七為小替て攻まりける敵の物具小留る先よ
 り突出せ火小縮妻のめくまり滅小堪難き寒國よりとくと志敷
 刻防戦の勢小曹の内具足の下より流る汗小急の緒草摺小下て
 ハ水柱と成号をきて口舌の乾と止登しと手透を得敵門外小
 ひしと攻者扉と打破んと歎を龍兵指付て射立討殺しと

いとも少くも疾まぶ其死骸を踏付刻越て除り小強く門を大
 軍押多打敵し六脱小上下に通しも貫の本も折す射りれば
 士大の門を開て切て出りも暖き城坂と二十回計追崩し火花
 と散して戦り家三大将夫倉より程近く見下し居りると共敵味
 方入今も打立登お松もかし龍兵坂中み於て陰下の高名士討
 死味方いさ人も討とて引あかぬ敵間とく付来り味方鎧の陰を
 を握り二十回分其程敵小押付を見さ後志所りよと登る敵味方
 引別きてるを見て三好のねら夫倉より横矢小打立登る敵もま
 らざして引ぬる三將軍士小向て各只今のより増ふるとも筆
 小及難し大明の大軍も定て眼と覺まぶし遊哉遠國異朝の手

柄杓日本 殿下の服初備奉らざと持参りけり十一
 人の高岩実松小及清正の軍士北川藩首尉首一幸長の軍兵
 木侯彦三郎首一吉多田中小左衛尉九津見兵藏大河内
 左衛尉川村十助林角彦尉法井又信尉近藤甚忠尉松原
 次郎右衛尉山川長兵衛尉九まで尉取り城内の上下足を見て
 清正肥後半國幸長甲斐一國の守護中して首首の宛取らふ
 一吉終の小身中九取らふ幸長は勇士と持参り物と
 讚嘆せぬと無りけり然る三三の九堀下に大敵の死骸敷と知れど
 沙汰も田中大河内川村林近藤五人因りて一見しめてぬるさふ
 見え二の九の門脇ふおき桶小杯を海高聲ふ水を賣大河内と

寄見て何と問其杯一之水と代銀十枚と云大河内各り
 水飲之と云各代銀一と云大河内代銀某持りき何れも
 飲給と云一が皆人共飲り各先給其代銀一と云
 一と云一人跡小残り大河内も一盃飲られしと云水ありけ共
 金家もまだ通して通一と思て己の辨ふき奴も歴の京原
 を飲せり沙汰の限と云捨立ゆんと云水商人大河内體の
 袖ふ五分大分の金と云六下と云と歎る大河内理て曰金ハ
 持され共皆骨抄も軍士も共興り籠城武運開くまで
 某不放置中ありとも某ありとも彼在せり程も充り下若
 落城小於て汝金銀幾持り共詮ふと色と云聞き色

ども商人合點世辰是非とも下れまこと云大河内多き己耳の穴も
 あらぬらりさめいりて金言んとまきまに遣あつたを見く商人の
 外も取遣き二の丸一づけよほさぬ大河内夫より降るま各水の内振
 巴系一と一孔を迷々田中不書を立て頻小同大河内答て愚るの
 聞りあは世法は城小何重ゆりてきんぎ理りまども聞ざるああら
 り突抜んとせしう早くして二の丸逃入けりと語る役所小寄居
 る一吉幸長も家の士一及小まを打て大笑一我も人も見るまどま
 代舞もい思遊りてと打過るあまのりともく出うしるると高美の音
 と聞て一吉幸長より喧喚しるゆは使を立る其中小田中ぬ
 も笑ひぞして草摺をひくと打拍も無念口惜き水を飲し系拍我

此水ノ果ガ各々無事おの成とて分年よも思はる大河内よて
 めもてふ船一と云云一其頼調がわきまて又大笑をぞ
 しりま三天将も是と聞て働もる仕方小堀裏の用よを奴
 小遊む也と笑り一清正幸長大河内と見度毎小いた大河内
 及此頃小南は仕給ひとまり大河内その事よ水商人小出逢
 り小堀裏の働門の堅め第二段一先水高ふ組申度厚共高
 人小逢ひとと答るま相高をせな事よと目くの勢りあて成小
 不々事小成ちれ一吉幸長の軍士等今夜討小出とと談極
 め大河内二の丸も切清正小面を密小合言葉と云合せ五六十騎馳
 出ま敷陣を打敷一瑞く少く高名一太刀刀も系敷皮以下を濫

あつて事敗る大子の門より

秀元其日討め方の鐔鉄の本爪小真諭の履輪よりけりその
鐔と上草ふはるる諸人は往寒くひびき其鐔ハ
何の為ぞやと云秀元答く愚うり各大明八十万騎の攻より
け切て出類ふき討め威方より運を用ふ子孫も傳へん
と云はる各大小突て炒豆をばもとも此城運を用ふは
らと捨給と云ると秀元をばもと死と云と答
て捨ざりける不思議の事死を免きて帰朝一二月寸備前
法光の脇差よりきて世俸造酒元秀連も傳へり此法光を
元来刀より父善兵衛尉政綱東條の合戦も帯一兄足立善

府政定上田の取軍も帯せ一刀より其を秀元傳りて南
原の城より朝鮮人四人の股を切て落し又判官ふとめを差
又尉山より大明人を切り日本も秀元よりあまき日
本人をも切めれば三國の人を討ち名譽の刀あり

女音未明より大敵一手を替りて申の刻も軍を透回かく攻
ありる去とも龍兵堅固も防戦一峰の臺木より上敵の首を
あざげ鎧先より大をとお玉の汗を流し突崩れ其日敵の兼又
叶いぞとく將軍判官あげ麾をゆりて巻ふとて引かざる銃兵
もあめ息をばききて休息せりける所も清守も添あけり商人
の本五升持出く高うりに賣加藤与平治をを見て買ふと聞

此れ、米商人、利金十枚とて、養加藤、其の、此時の、龍城、不
 争、金銀、有、我、大小、七、枚の、黄金、を、以、て、仕、立、た、し、尉、斗、付
 あり、是、を、以、て、五、斗、の、米、を、買、入、り、と、云、商人、大小、の、山、腰、の、地、に
 伏、殺、し、と、云、る、事、を、近、藤、四、郎、を、為、尉、斗、と、大、の、眼、小、角、と、立、て、碇、と
 睨、て、急、げ、る、理、非、を、も、知、ぬ、ゆ、へ、ぬ、り、口、上、に、堀、裏、を、せ、ぬ、奴
 ち、て、ら、か、一、大、河、内、の、水、を、と、り、て、例、も、あ、り、シ、ヤ、細、首、刎、落、せ、と、云、辰
 刀、の、柄、小、子、と、云、る、走、る、如、き、加、藤、押、と、め、先、陣、給、一、理、あり、大、河
 内、海、の、水、買、も、も、り、仕、合、の、上、下、知、ら、ぬ、人、を、き、ふ、今、又、彼、を、切、め、ぬ、大
 河、内、海、の、仕、合、と、云、る、事、を、以、て、一、只、代、と、遣、ま、し、と、云、辰、と、云、る、
 商人、の、近、藤、の、眼、色、小、肝、を、漬、ぬ、り、ひ、り、あ、き、居、り、一、則、大

小、清、お、て、米、を、渡、し、り、加、藤、其、米、を、五、粒、七、粒、が、残、り、は、傍、軍、の、士
 小、振、舞、々、る、三、大、將、を、先、と、り、て、上、下、を、見、聞、し、若、年、の、弱、り、
 類、少、き、士、と、感、涙、を、と、流、し、一、吉、幸、長、の、軍、兵、夜、入、を、待、て、又
 夜、討、せ、ん、と、後、一、清、正、よ、お、の、ど、く、直、談、を、清、正、の、け、り、と、各、此
 中、の、飢、渴、小、道、も、早、弱、く、一、月、を、無、用、多、く、と、あり、各、各、を、云、
 考、果、以、得、き、少、一、成、共、攻、取、得、兵、の、効、小、致、を、愈、く、と、て、例、の、送
 兵、も、思、の、ま、に、打、ま、し、一、玉、薬、弓、矢、少、く、戦、ひ、て、ぞ、帰、る、云
 廿、六、日、未、明、外、が、の、さ、あり、騒、々、く、人、馬、の、足、音、響、と、い、ど、も、人
 ち、の、陣、を、月、を、曇、り、霧、を、深、一、闇、夜、小、燈、を、失、が、如、一、敵、の、形、を
 計、ら、堀、裏、の、剛、士、少、く、懈、怠、せ、兵、仗、を、ほ、き、攻、む、と、遅、し、と

待りながら案のどく不説に置し大竹の登り道二三か九乃石垣一掛一及小半乗より大木関を揚ふる味方思まらざるは居る少くも驚い時をも合せに静り返り侍より敵弥平呼んで堀乃代木を掛る籠兵一及小立ゆを面や胃や胸の板着るを幸小突落し刃落して然れ小居の別計よる王の本陣頻小早鐘をまゝ懸養不ぐして陣おとす門おける籠兵不審をさし今日の夜を早く引かれぬ何の事やと云合し大責の其間小枯草と山の六とく二三の丸の小枯草積上より一吉是と見せ田中が急射九津見兵藏大河内氏左衛尉を言て敵焼草と積垂し一夜小入る門長屋矢倉と持り必死焼崩をさき智略する其方三

人二の丸行て清正不相談をさし若清正近この挨拶小於て三人密に珍ま出焼捨し敵更と見え馳向は是も早めて取入は強て出ばと云ハ時より敵より所よりありと細くと知ると三人畏り清正よ達くも清正基もたふそ存ぞれとよ依る只今早と後四郎左衛尉を云付て遣し今に焼立は是も早めて見物し路と茶至其内近藤火をほり悉く焼失し取分け三人更と見て清正の返答と問立歸り又清正今夕も夜討小出由合言葉の品と云通しは清正堅く制して是の弱き小敵早入ぬ事と云り三人答る仰のどくも兵今晩計小出と云合せゆり枯草焼く事近藤が手桶方一吉洋小申する角で城内食事飲水と絶てふ